

強力な公害闘争を

全国連 七月、熊本に調査団 絡会議

【富山】総評主催の公害対策全国連絡会議（肥川治一郎議長）は、八日午後一時から富山市・富山県民会館で全国の県評関係者や新潟、熊本の水俣病対策会議、四日市公害協議、地元富山のイタイイタイ病対策会議と患者代表など約百人が出席して開かれた。

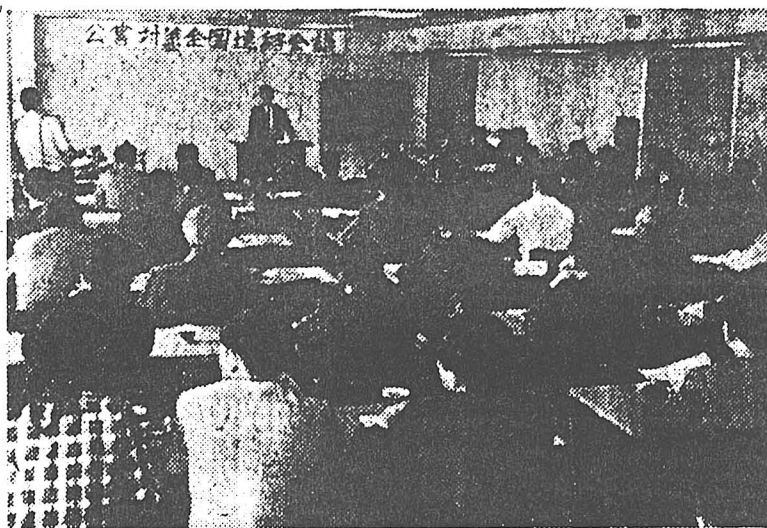
同会議は五月十二日に結成されていらい一回目だが、十日から同市で第十二回地方自治研究全国集

会が開かれるのを機会に、公害問題には自治闘争と密接な関係があるとして同集會に先だつて開かれた。

小山内事務局長が連絡会議結成までの経過を報告、これに対し各団体代表から意見発表があったあと、当面の運動方針として同会議がまとめた①全国に発生している公害を、全部法廷に持ち出して国民の関心を高め、救済体制を組織的に展開することを決めた。

化する②公害発生日に調査団を派遣するが、とりあえず七月に熊本に調査団を送る③公害から子供を守るため、各自治体に健康診断の実施を求める④国会の予算要求の時期にからませ、被害者の全国大会を開く⑤現地闘争を盛りあげるため県評を中心にして連絡会議の組織化を促進するの五点を確認、今後強力な公害闘争を全国的に展開することを決めた。

化する②公害発生日に調査団を派遣するが、とりあえず七月に熊本に調査団を送る③公害から子供を守るため、各自治体に健康診断の実施を求める④国会の予算要求の時期にからませ、被害者の全国大会を開く⑤現地闘争を盛りあげるため県評を中心にして連絡会議の組織化を促進するの五点を確認、今後強力な公害闘争を全国的に展開することを決めた。



公害対策全国連絡会議の会場

会議のなかで熊本代表から「連絡会議の運動方針には全面的に賛成するが、法廷闘争を起すには訴訟費用が一番大きな問題なので全国的な支援体制を早急に組んでほしい」、また新潟代表から「公害闘争は自治体の姿勢を住民の側につかせておくべきで、各地の連絡会議も自治体を中心になった方がよい。また公害の恐ろしさを国民にR.R.するため生命を守る国民大行進の実施を提案する」など活発な意見が出た。国民大行進については同連絡会議でさっそく検討することになった。